

## 家畜衛生研修会（病性鑑定病理部門，2007）\*† における事例記録（V）

Proceedings of the Slide-Seminar Held by the Livestock Sanitation Study Group  
in 2007 Part V \*†

(2008年2月1日受付・2008年5月1日受理)

### 26 腐敗甘藷中毒を疑う間質性肺炎

〔山口聡子（兵庫県）〕

黒毛和種，雌，24カ月齢，斃死例（死後約3時間で剖検）。2006年12月19日夜より食欲廃絶，風邪様の症状を呈した。翌日，体温38.2℃，全身発汗が著しく，冷感，頸を伸展し開口呼吸，舌突出，流涎を呈した。診療獣医師が治療するも，翌日昼間斃死した。さらにその翌日同症状を呈した1頭が斃死した。畜主が発生の10日程前に腐敗甘藷を給与していた。

剖検では，肺は全葉にわたり暗赤色を呈し，小葉間質が大小の気泡のために肥厚していた。腎臓の表面に白斑が散発していた。心臓の一部には点状出血があった。

組織学的には，肺はおもに，間質および肺胞性肺気腫があり，Ⅱ型肺胞上皮細胞が増殖していた（図26）。また，肺胞壁に沿って硝子膜が形成され，肺胞腔内ではマクロファージが増殖し，Ⅱ型肺胞上皮細胞が飜離してい

たが，多形核白血球の浸潤はまれであった。肝臓では小葉中心性に肝細胞が変性し，核が消失していた。脾臓ではリンパ球が脱落し，軽度に褐色色素が沈着していた。腎臓の間質に単核細胞が浸潤し，尿細管に硝子様または硝子滴状円柱があった。大脳の血管周囲性に軽度に単核細胞が浸潤していた。

病原検索では，菌分離はされなかった。気管スワブを用いたRSウイルス簡易検出キットによる検査は陰性であった。肺乳剤からウイルスは分離されなかった。同乳剤を用いたRSウイルスおよびBVDウイルスのPCR検査は陰性であった。

以上のことより，本症例の死因の特定に至らず，腐敗甘藷中毒が疑われた。

※以降、詳しくは日本獣医師会雑誌Vol. 62 No. 4をご覧ください。

\* ㈩農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所（〒305-0856 つくば市観音台3-1-5）

\* *National Institute of Animal Health (3-1-5 Kannondai, Tsukuba, 305-0856, Japan)*

† 連絡責任者：芝原友幸（㈩農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所）

〒305-0856 つくば市観音台3-1-5 ☎・FAX 029-838-7774 E-mail : tshiba@affrc.go.jp

† *Correspondence to : Tomoyuki SHIBAHARA (National Institute of Animal Health)*

*3-1-5 Kannondai, Tsukuba, 305-0856, Japan*

*TEL・FAX 029-838-7774 E-mail : tshiba@affrc.go.jp*